

# 各地の取り組みー福井県における植物防疫業務ー

福井県農業試験場 病虫害防除室室長 酒井 究

## ■福井県の農業の概要

福井県は、水田面積が約36,000ha、畑地が約3,700haである。水田の大部分は水稻で、大麦、大豆、そばに加え、サトイモ、ネギ、タマネギ、キャベツなどの園芸作物も作付けされている。畑地として、県北部の丘陵地、北西部の砂丘地では、ミディトマト、メロン等の施設園芸、ラッキョウ、ネギ、キャベツ、ナシ等が作付けされている。

## ■福井県病虫害防除室の沿革と特徴

本県の発生予察事業は1941年より実施され、病虫害防除所は1952年に設置された。1988年に福井県病虫害防除所に一本化されたものの、所員は嶺北、嶺南に常駐した。2000年には農業試験場（以下、農試）に組織が移行し、病虫害防除室となった。現在の職員数は7名で、嶺北に6名、嶺南に1名常駐し、すべて試験研究業務と兼任で、研究と連携しながら、病虫害の発生予察と発生防止に努めている。

## ■業務の内容

### 1 病虫害の発生予察と情報提供

4～11月に、月1～2回、県内の水田、畑地、施設を定期的に巡回・調査している。この際、フェロモントラップ調査（カブラヤガ、オオタバコガ、コナガ、ハスモンヨトウ、ニカメイガの5種類について各1ヶ所に設置）、誘蛾灯調査（4ヶ所に設置）も行っている。近年発生量の多いクモヘリカメムシについても、本年、フェロモントラップ調査を始めた。また、野菜産地の農家5戸、花き産地の農家2戸や、40名の水稻病虫害防除員に調査を依頼し、情報収集に努めている。さらに、BLASTAMによるいもち病初発予測を含め、データは、毎月1回の予察委員会で検討し、予察予報にまとめて関係機関に送付、農試HPへの掲載をしている（図）。また被害が懸念される場合は、注意報を発令する。

侵入警戒調査としては、現在、8種類の病虫害（ツマジロクサヨトウ、チチュウカイミバエ、コドリング、ウメ輪紋ウイルス（PPV）、火傷病、スイカ果実汚斑細菌病、トマト黄化葉巻病、キウイフルーツかいよう病）について、継続的に調査してきた。この他、この10年で、トマト黄化葉巻病やマメハモグリバエ等5種類の病虫害の本県侵入を確認し、普及センターと連携し、防除指導を行ってきた。

農薬耐性菌、抵抗性病虫害の出現状況については、年2～3剤について試験し、特にいもち病、コナガなど抵抗性の発達しやすい病虫害については、5年ごとに試験している。

### 2 防除指導

対象病虫害の多発生が懸念される場合、「防除だより」を関係機関に送付し、農試のHPに掲載

# 病害虫防除室（令和2年）

最終更新日 2020年3月10日 | ページID 043615 | 印刷

## 発生予報情報

| 日付    | タイトル            |
|-------|-----------------|
| 3月17日 | 農作物病虫害発生予報予報第1号 |
| 3月30日 | 農作物病虫害発生予報予報第2号 |
| 5月1日  | 農作物病虫害発生予報予報第3号 |
| 6月1日  | 農作物病虫害発生予報予報第4号 |
| 6月30日 | 農作物病虫害発生予報予報第5号 |
| 7月31日 | 農作物病虫害発生予報予報第6号 |
| 8月28日 | 農作物病虫害発生予報予報第7号 |

## 防除だより・注意報・特報

- ・3月30日 防除だよりNO.334 オオムギ食害が広域に注意しよう！
- ・6月19日 防除だよりNO.335 スイカ疫病の発生に注意！
- ・6月30日 農作物病虫害発生予報予報第5号
- ・7月9日 防除だよりNO.336 断続的降雨、雨のちの発生に注意！
- ・7月9日 農作物病虫害発生予報特報第1号
- ・7月22日 防除だよりNO.337 中晩生稲いもち多発の恐れ、出穂前に防除を！
- ・7月27日 農作物病虫害発生予報注意報第2号
- ・9月11日 防除だよりNO.338 ハスモンヨトウの多発生に注意！

## 農家のフェロモントラップ調査

| 害虫名     | 対象作物      | 調査期間   | 調査地点   | 最終更新  |
|---------|-----------|--------|--------|-------|
| カブラヤガ   | 野菜、花、ダイズ等 | 4月～10月 | 農業試験場  | 8月5半旬 |
| ハスモンヨトウ | 野菜、ダイズ等   | 4月～10月 | 農業試験場  | 8月5半旬 |
| コナガ     | 野菜        | 4月～10月 | 農業試験場  | 8月5半旬 |
| オオタバコガ  | 野菜        | 4月～10月 | 農業試験場  | 8月5半旬 |
| ニカメイガ   | 水稻        | 5月～9月  | 坂井市三間町 | 8月5半旬 |

令和2年フェロモントラップ誘殺状況マップ

令和2年フェロモントラップ調査状況をクリック

図 農業試験場 HP での掲載例

し、発生軽減に努めている。また、病虫害の発生状況が変化してきた場合は、県レベルアップ委員会等で、注意喚起をしてきた。

発生が顕著だった場合、現地に出向き、発生状況を確認するとともに、発生原因を検討し、発生軽減を図っている。例えば、2016年に粉枯細菌病による苗立枯症が多発した場合は、育苗センターにて浸種槽内、ハウス内の温度等を測定し、問題点を抽出し、防除指導を行った。ナシ黒星病が多発した場合は、現地樹園で落葉からの孢子飛散が関与することを示し、防除指導を行った。これらの結果、それ以後発生はほとんどない状況にある。

地域単位での研修会の要望がある場合は、地域に出向き、薬剤の使用法、病虫害の発生対策を農家に直接説明している。本年は2地区にて実施した。

## ■課題と今後の取り組み

職員数が減少する中、効率的な発生予察の遂行が必要と考えている。タブレット端末によりデータを圃場で直接入力するなど、省力化を考えていきたい。また、温暖化が進行し、病虫害の発生傾向も変化していくと考えられ、突発的な病虫害の多発も懸念されるので、迅速に対応できるよう、県担当課と連携していきたい。